



令和元年度 くまもと県民カレッジ 「パレアミュージアム」
 日時 2019年9月11日(水) 14:00~15:30
 場所 くまもと県民交流館パレア・10階会議室7

肥後熊本のめがね橋 石工年表

東陽石匠館 館長 上塚 寿朗 先生

日本のめがね橋の大半は、九州にある！

めがね橋の数

大分 500基強
 鹿児島 450基強
 熊本 340基強

熊本のめがね橋は数的には九州で3番目だが大分・鹿児島は大正時代に多く架けられている。熊本は江戸時代に架けられた。

肥後の石橋は歴史が古い！

熊本県にめがね橋が多いのは、江戸時代、当時の藩主細川重賢公が、宝暦の改革で「地域のことは地域に任せる」と、総庄屋に各手永のことを任せた結果である。

県内最古のめがね橋は、菊鹿町石工の仁平さんが造った日渡「洞口橋」彼は阿蘇黒川などにも架設

江戸時代の石橋が人吉(1基)・天草にないのは当時の熊本県は①熊本藩 ②人吉藩 ③天領天草 に分かれていた

めがね橋の架設4条件 (元石匠館館長上塚尚孝氏・熊大小林一郎教授)

- 1、政治
- 2、経済
- 3、技術
- 4、資材

藩は「請免制」という年貢率を引き下げる減税対策を講じた。また寸志には、帯刀や苗字をもらうなどの見返りもあった。それが功を奏し寸志が集まり1800年頃より土木事業が活発になった。

技術者は主に大工と石工。石工には円周率の知識が必要だった！
 主な石材は溶結凝灰岩。太古の昔阿蘇の大噴火、火砕流の恵みがあった

岩永三五郎 野津石工

1793年誕生
 1851年没

1818年雄亀滝橋
県内初の水路橋

その後、八代干拓の七百町新地や矢部総庄屋布田保之助の要請で聖橋、浜町橋などを造る。また薩摩藩から招へいされ、新上橋、西田橋、高麗橋などを造った。

仕事が早い！ 巧い！
 石の加工がきちんとしている。
 天才的工事で苗字を許された

「永代不朽の橋」で、民の生活は潤った！

弟子 (橋本兄弟) 種山石工

長男 宇助 (橋本仙蔵)

1816年誕生
 1886年没

1846年霊台橋

天神橋

御船川橋

八勢橋

など



次男 宇市

1819年誕生
 1871年没

霊台橋工事の時、宇市は別の橋架設中で、丈八の記載はなし

御船川橋

金内橋

通潤橋

など



三男 丈八 (橋本勘五郎)

1822年誕生
 1897年没

御船川橋

金内橋

通潤橋

八勢橋

東京の神田筋違橋や

浅草橋などを造る。

明八橋

明十橋

下鶴橋

など



下鶴橋の宝珠

めがね橋 (石橋) は何故衰退していったか？
 車社会になったことと、手作業で労力がかかり
 コンクリートよりコストが高いため

ご先祖の血と汗の結晶を後世に残そう！

うえつか としろう

上塚 寿朗 先生

八代市東陽石匠館館長
 幼少期より、長年石匠館館長・名誉館長を務められていた父上塚尚孝氏の「めがね橋」調査に同行されていた。右欄紹介図書の撮影を担当。



講師紹介

お薦めの本があります！ この本をガイドにして郷土の遺産、「めがね橋」巡りをしてみませんか？

熊本の目鑑橋 345

上塚 尚孝 著作

上塚 寿朗 写真

平成28年・熊本日日新聞社 発行

くまもと県民カレッジ広報ボランティアC・M作成